

率直な意見交換を通じて関係を強化 ～ 海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース(TF)」を設置し、優秀な日本人船員(海技者)確保のための広報活動を行っているが、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて具体的な活動を進めている。

この度、内航WGが中心となって、海技教育機構本部及び傘下の海上技術学校、海上技術短期大学校、及び海技大学の教員と、当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を東京と神戸で開催した。



神戸会場の様子

今年で5回目を迎える情報交換会は、これまで同様に東京(日本船主協会会議室)と神戸(海技大学校会議室)の2会場で実施した。6月3日開催の東京会場には、海技教育機構本部、口之津及び唐津の海上技術学校、波方海上技術短期大学校、海技大学の教員と内航船社18社から27名が参加。一方、同13日開催の神戸会場には、海技教育機構本部、小樽及び館山の海上技術学校、宮古及び清水の海上技術短期大学校、海技大学の教員と、内航事業者16社から20名が参加した。



東京会場の模様

東京会場では、海技教育機構本部から、入試状況や近年の良好な就職状況等の機構の概要について報告が行われた。次に教育機構から提起された「定着率向上に向けた取り組み」、「採用された卒業生の職員登用」、「船社が求める新人船員像」、「三級と四級海技士資格者を同時に採用した場合の扱い」のテーマについて、意見交換が行われた。

神戸会場では、海技教育機構の概要の説明に引き続き、同機構から提起された「新人船員が感じるミスマッチ」、「内航船員教育において必要となる技術や知識と機構での教育内容」及び「女子生徒採用(お願い)」について、意見交換が行われた。

また、両会場において、仕事に取り組む上で必要な基本的姿勢や生徒の適性の把握について、また離職後の調査・ケアの必要性について内航船社と同機構の双方が時間を割いてそれぞれの現状について有意義な情報交換が行われた。

また、将来の内航海運業界を支える優秀な新人船員の養成に向け、引き続き連携強化に取り組む必要性を確認して終了した。

日本船主協会では、来年度以降もこの情報交換会を継続して開催していく。